

## 西日本豪雨被害視察

9月14日、JR連合は、7月に甚大な被害に見舞われた西日本豪雨被害地区視察及び広島貨物ターミナル駅視察を、JR連合国会議員懇の泉健太議員、小川淳也議員、岸本周平議員、1世紀の鉄道を考える議員フォーラム、森山浩行議員、森本真治議員、津村啓介議員と共に、貨物鉄産労からは大杉委員長が同行しました。今回の豪雨では、JR西日本管内約700箇所が被害があり、山陽線、芸備線、呉線などが寸断されました。今回、特に被害の大きかった八本松駅、瀬野駅の八本松変電所、瀬野駅などを視察しましたが、豪雨被害から約2ヶ月間でここまで復旧したことを目の当たりにし、昼夜を問わず働いた現場の皆さんに感謝するとともに、頭の下がる思いでした。今後、今年の通常国会で、鉄道軌道整備法が改正されたことにより、適用条件を鑑みながら完全復旧に向け整備されていきますが、安全最優先をお願いしたいと思います。

9月9日以前は、広島駅、南陽駅も不通でしたが、構内においての混雑したトラック渋滞の写真をお見せしながら、当時の苦労や対応を説明し、山陽線が分断されている現在の物流状況を把握していただきました。大杉委員長からは、西日本豪雨災害によりトラック確保が難しい状態であったが、国交省道路局がトラック確保支援として「特殊車両通行許可」を即日許可してくれたため、代替輸送力が上がったこと、感謝すると共に、今後も柔軟な対応をお願いしたい。また、トラックドライバーは、法的に拘束時間が基本13時間のため、ドライバー負担軽減のためにも、主要貨物駅と港が一つの巨大ターミナルとなるよう、国が主導となって、主要貨物駅と港との結線を推進してもらいたいと要望し視察は終わりました。

視察を終え、山陽本線は鉄道貨物の大動脈であり、日本の物流インフラの観点からも、山陽線被災線路に対して、今年度補正予算の検討、鉄道の強靱化予算を盛り込んでいた。だきたいと痛感致しました。今後、政策実現のためJR連合は、JR連合国会議員懇、1世紀の鉄道を考える議員フォーラムと共に国政に提言していきます。



八本松変電所付近土砂崩れ現場



八本松変電所



芸備線 第一三篠川橋梁



呉線水尻駅



JR連合松岡会長



広島貨物ターミナル駅視察